

## 第2章 地域の概況

### 1 自然条件

本市は、東西 29km、南北 17.5km で、面積 208.84km<sup>2</sup> を有し、紀伊半島の北西部に位置し、北はみどり豊かな和泉山脈ののどかな山並みに囲まれ、西は風光明媚な紀淡海峡に面し、紀の川の広大肥沃な平野を中心にまちが形成されています。

また、瀬戸内海国立公園の景勝地である和歌浦、雑賀崎、加太、友ヶ島などの海岸は全国に誇れる景観を形成し、和歌浦については、平成 29 年度日本遺産に「絶景の宝庫 和歌の浦」として認定されました。

気候は温暖であり、雨量も少なく、いわゆる瀬戸内海式気候に属しています。

平成 28 年の年平均気温は 17.7℃ であり、月別では 1 月の平均気温が最も低く、8 月が最も高くなっています。降水量は年間 1508.0mm であり、9 月に最も多くなっています。また、平均湿度は 68% であり、四季を通じて温暖な気候に恵まれています。

### 2 歴史背景

本市は、大阪湾の海上交通と紀の川の河川交通の結節点に位置し、古来、人、もの、情報が行き交う交流拠点として栄えてきました。中世まで、雑賀衆をはじめとする裕福な土豪集団が割拠していましたが、天正 13 年に豊臣秀吉により平定され、吹上の峰に「和歌山城」が築城されました。元和 5 年に徳川家康の 10 男徳川頼宜が入城し、以後、徳川御三家紀州藩 55 万 5 千石の城下町として繁栄し、第 10 代藩主治宝の時代の藩医には世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功した外科医、華岡青洲もいました。明治 22 年に市政を施行し、その後、近隣町村との合併を経て今日の市域が形成されました。

### 3 交通

本市における広域的ネットワークを形成する路線は、高規格幹線道路の近畿自動車道紀勢線が大阪府との府県境から南北に走り、市域には和歌山インターチェンジ、和歌山北インターチェンジが設置され、関西国際空港や京阪神地区へ連結する動脈として人、もの、情報の交流が盛んに行われ、都市活動の広域化が一段と進んでいます。

主要幹線道路のうち、一般国道については、24 号、26 号、42 号の 3 路線があり、これらの路線を骨格として県道や市道により、市域内の各地や近隣市町を結ぶ道路網が形成されています。

また、広域幹線道路である京奈和自動車道や第二阪和国道の整備により、大阪方面や中部、関東方面へのアクセスが飛躍的に向上しています。

鉄道については、和歌山駅を拠点として、JR 西日本の阪和線、紀勢本線、和歌山線の 3 線と和歌山電鐵の貴志川線があります。

また、和歌山市駅を拠点として、南海電気鉄道の南海本線、和歌山港線、加太線の 3 線があります。

#### 4 人口（国勢調査資料による）

##### （1）総人口

和歌山県の人口は、963,579人で、そのうち本市の人口は364,154人で、男性171,215人、女性192,939人となっています。平成22年と比較しますと市全体で1.67%の減少となっています。

また、本市の世帯数は153,089世帯となっています。1世帯あたりの人員は平成12年2.69人、平成17年2.58人、平成22年2.43人、平成27年2.38人と年々減少しています。

表1 本市の人口及び世帯数との推移

(単位：世帯、人)

	総世帯数	人口	男性	女性	1世帯あたりの人員
平成7年	139,875	393,885	187,664	206,221	2.82
平成12年	143,651	386,551	183,279	203,272	2.69
平成17年	145,339	375,591	176,825	198,766	2.58
平成22年	152,569	370,364	174,104	196,260	2.43
平成27年	153,089	364,154	171,215	192,939	2.38

【国勢調査（平成27年）】

##### （2）人口構成

人口構造を年齢3区分で見ますと、年少人口（0～14歳）は、44,519人で構成比から見ても、平成22年から0.4%減少しており、少子化が進行しています。

また、生産年齢人口（15～64歳）は、211,753人で平成22年より、2.6%の減少がみられますが、これは、和歌山県、全国においても、同様に減少傾向にあります。

高齢者人口（65歳以上）は、105,954人（構成比では29.1%）で平成22年より3.7%増加しており、高齢化が急速に進行しています。

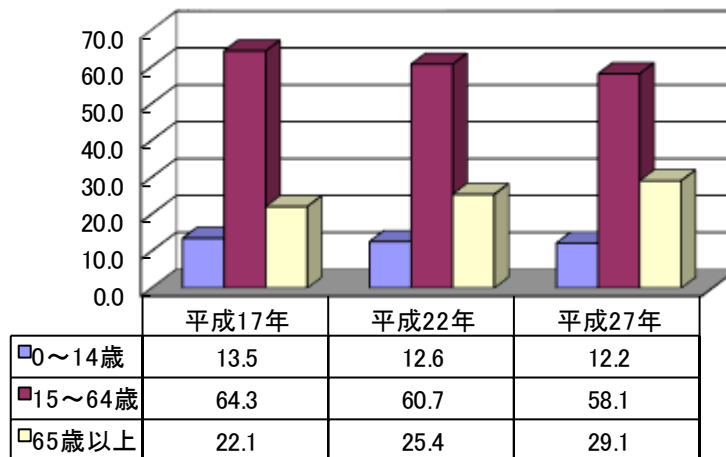
表2 年齢3区分人口

(単位：人)

		本市				和歌山県			
		総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成17年	実数	375,591	50,646	241,442	82,838	1,035,969	142,670	642,428	249,473
	構成比	100.0	13.5	64.3	22.1	100.0	13.8	62.0	24.1
平成22年	実数	370,364	46,739	224,708	94,130	1,002,198	128,005	594,573	270,846
	構成比	100.0	12.6	60.7	25.4	100.0	12.8	59.3	27.0
平成27年	実数	364,154	44,519	211,753	105,954	963,579	116,412	546,279	296,239
	構成比	100.0	12.2	58.1	29.1	100.0	12.1	56.7	30.7

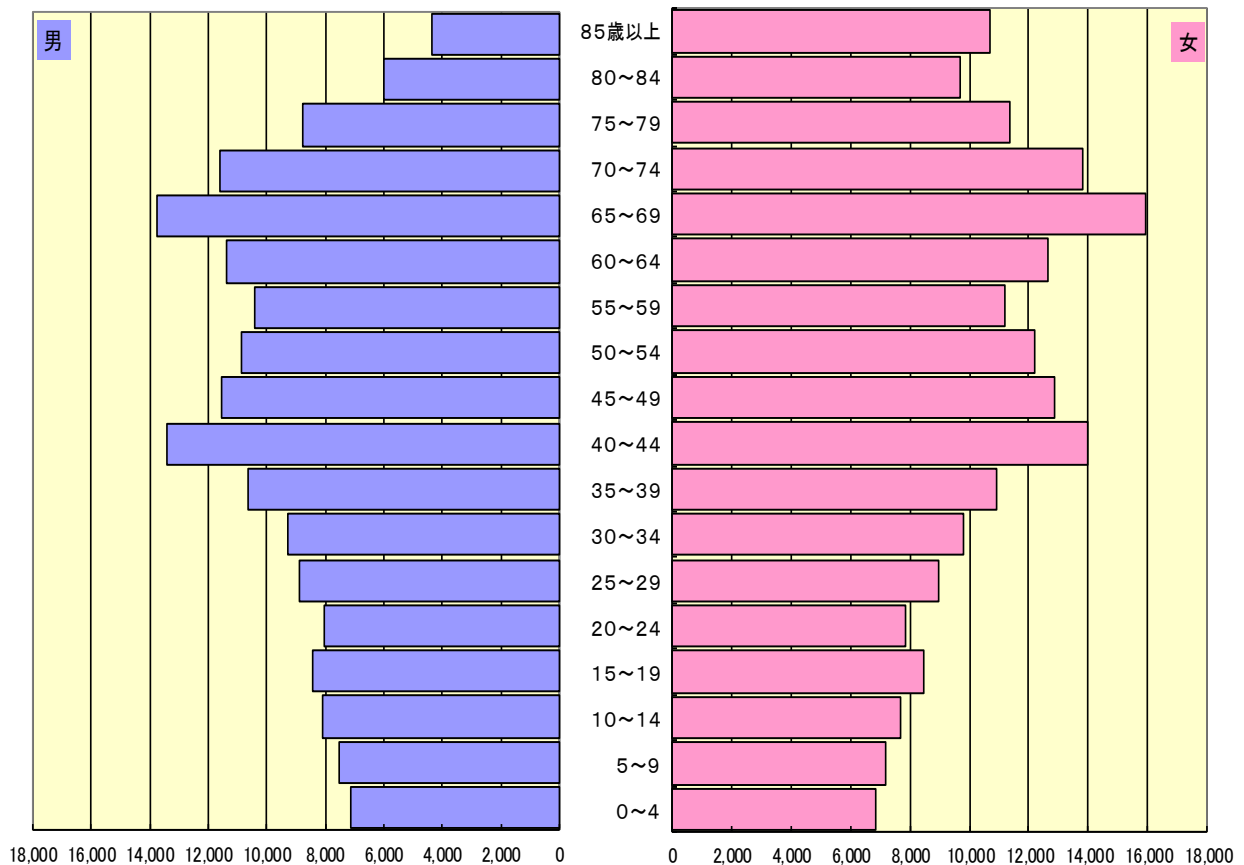
【国勢調査（平成27年）】

図1 本市の年齢3区分人口構成比



【国勢調査（平成27年）】

図2 平成27年国勢調査5歳階級別人口



【国勢調査（平成27年）】

(3) 高齢者の状況

高齢者の推移を見ますと、平成22年には94,130人で高齢者率25.4%でしたが、平成27年には105,954人に増加し、高齢者率は29.1%に上昇しています。

また、65歳以上の高齢者の中で一人暮らしの高齢者数は平成22年には18,834人(20.0%)でしたが、平成27年には22,322人(21.1%)と増加しています。

表3 高齢者の推移

区分		(単位：人)			
年次	総人口 (A)	65歳以上の 高齢者 (B)	高齢者率 (B)/(A) %	一人暮らしの 高齢者 (C)	(C)/(B) %
平成7年	393,885	59,996	15.2%	9,755	16.3%
平成12年	386,551	71,924	18.6%	12,724	17.7%
平成17年	375,591	82,838	22.1%	15,905	19.2%
平成22年	370,364	94,130	25.4%	18,834	20.0%
平成27年	364,154	105,954	29.1%	22,322	21.1%

【国勢調査（平成27年）】

高齢者世帯数をみますと、平成22年には、63,228世帯で全世帯の41.3%でしたが、平成27年には69,611世帯で全世帯の45.5%に増加しています。その中で、高齢者夫婦のみの世帯では、0.6%の増加があり、単独世帯全体では、0.7%の増加がみられますが、単独男性世帯では0.5%増加しているものの、単独女性世帯では反対に0.5%の減少がみられます。

表4 高齢者世帯構成割合の推移

区分		(単位：世帯)										
年次	総世帯数 (A)	総高齢者世帯数 (B)	(B)/(A) %	(C)のみの世帯	(C)/(A) %	単独世帯 (D)	(D)/(A) %	単独世帯「男」 (E)	(E)/(D) %	単独世帯「女」 (F)	(F)/(D) %	
本市	平成17年	145,339	56,974	37.3	32,066	22.1	37,130	25.5	16,504	44.4	20,626	55.6
	平成22年	152,569	63,228	41.3	32,951	21.6	47,152	30.9	21,430	45.4	25,722	54.6
	平成27年	153,089	69,611	45.5	33,910	22.2	48,369	31.6	22,225	45.9	26,144	54.1
	H27/H22	1.00	1.10	1.10	1.03	1.03	1.03	1.02	1.04	1.01	1.02	0.99
和歌山県	平成17年	383,214	169,196	43.0	87,375	22.8	90,736	23.7	38,090	42.0	52,646	58.0
	平成22年	393,553	181,097	46.2	89,362	22.7	107,692	27.4	46,911	43.6	60,781	56.4
	平成27年	392,332	193,769	49.4	91,119	23.2	114,911	29.3	50,693	44.1	64,218	55.9
	H27/H22	1.00	1.07	1.07	1.02	1.02	1.07	1.07	1.08	1.01	1.06	0.99

【国勢調査（平成27年）】

(4) 就業人口

平成27年の就業者数は、162,655人で、平成22年に比べて270人の減少となっています。

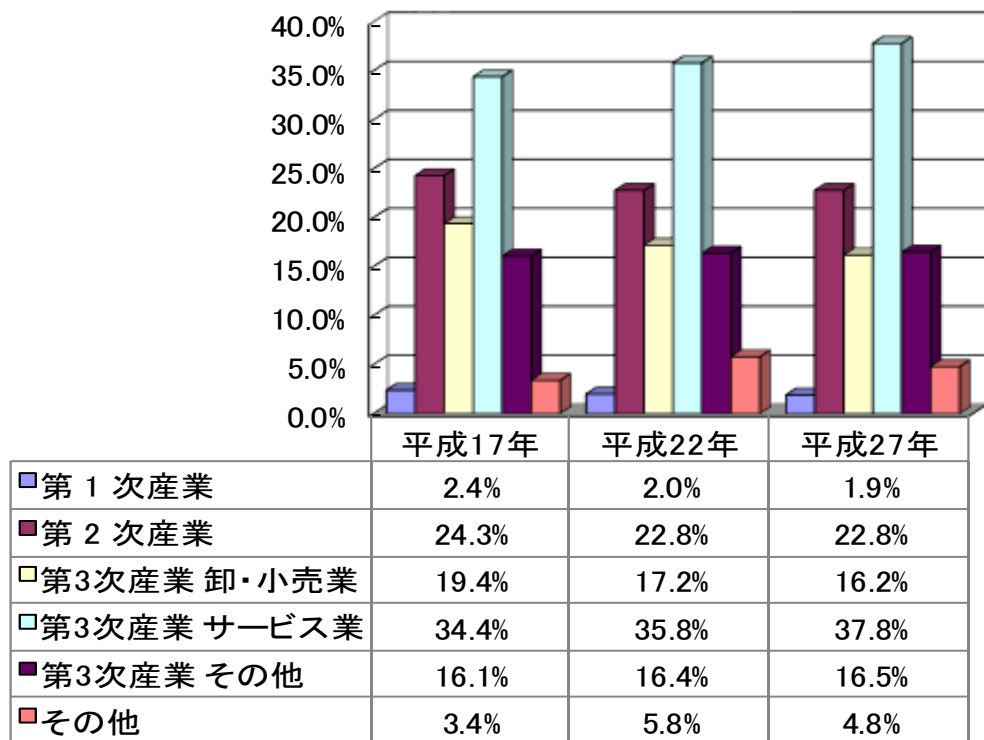
産業3部門別就業者数は、平成22年には第一次産業3,201人(2.0%)であり、平成27年には3,023人(1.9%)と減少しています。

また、製造業など第二次産業は、平成22年には37,197人(22.8%)でしたが、平成27年には37,094人(22.8%)と減少しています。

一方、第三次産業は、平成22年には、113,037人(69.4%)でしたが、平成27年は、114,600人(70.5%)で1,563人の増加となっています。

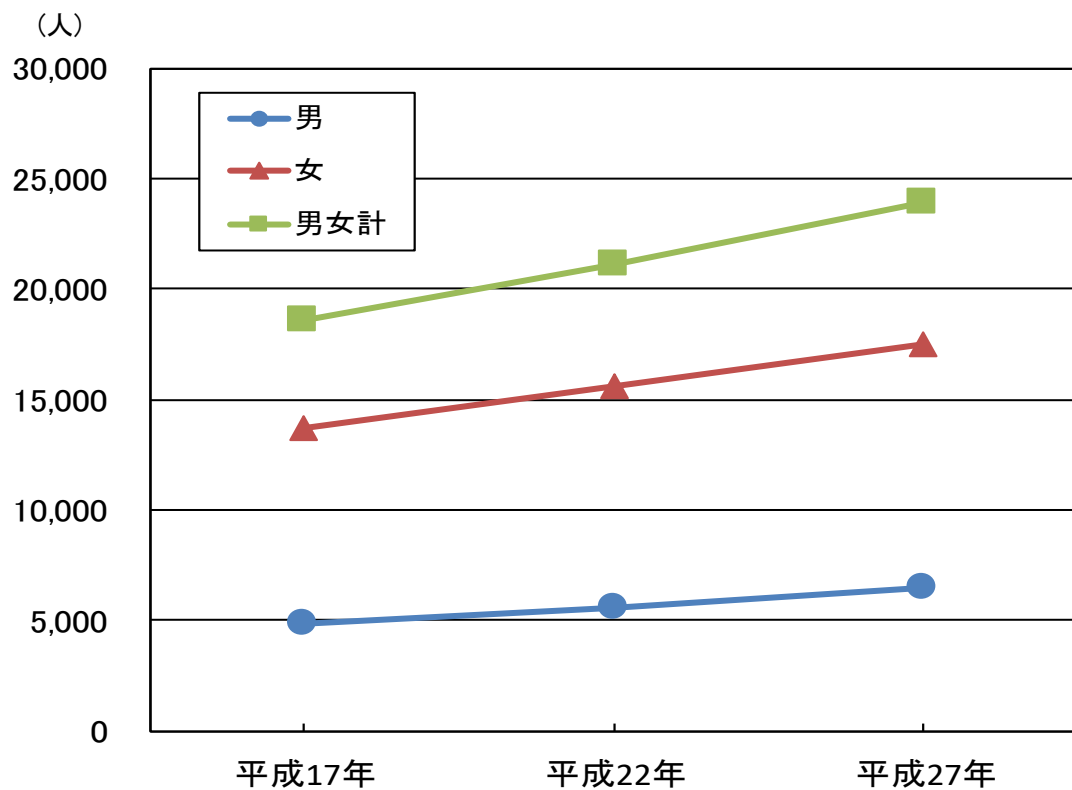
内訳を見ると、医療、福祉で、2,846人の大幅な増加となっています。

図3 産業3部門別就業者割合



【国勢調査（平成27年）】

図4 医療、福祉男女別就業者数の推移



【国勢調査（平成27年）】

表5 国勢調査結果における産業別・男女別就業者数(本市)

(単位：人)

	国勢調査 年次別 人口総 数	就業者 数 総	第1次産業				第2次産業				第3次産業											T 分類 不能 の 産 業					
			A 農 業 ・ 林 業	う ち 農 業	B 漁 業	A～B 計	C 鉱 業 ・ 採 石 業 ・ 砂 利 採 取 業	D 建 設 業	E 製 造 業	C～E 計	F 電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	G 情 報 通 信 業	H 運 輸 業 ・ 郵 便 業	I 卸 売 業 ・ 小 売 業	J 金 融 業 ・ 保 險 業	K 不 動 産 業 ・ 物 品 賃 貸 業	L 学 術 研 究 、 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	M 宿 泊 業 、 飲 食 サ ー ビ ス 業	N 生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 、 娯 楽 業	O 教 育 、 学 習 支 援 業	P 医 療 、 福 祉		Q 複 合 サ ー ビ ス 事 業	R も の サ ー ビ ス 業 （ 他 に 分 類 さ れ な い ）	S 除 く 公 務 （ 他 に 分 類 さ れ る も の を ）	F～S 計	
平成 17 年	男	176,825	97,610	1,952	1,931	373	2,325	17	12,354	19,224	31,595	1,220	1,931	7,854	16,161	2,410	1,303	-	3,156	-	3,312	4,845	843	12,284	5,037	60,356	3,334
	女	198,766	70,911	1,622	1,617	68	1,690	5	2,089	7,339	9,433	105	801	1,329	16,561	2,774	800	-	5,518	-	4,598	13,749	478	9,244	1,522	57,479	2,309
	男女計	375,591	168,521	3,574	3,548	441	4,015	22	14,443	26,563	41,028	1,325	2,732	9,183	32,722	5,184	2,103	-	8,674	-	7,910	18,594	1,321	21,528	6,559	117,835	5,643
平成 22 年	男	174,104	92,694	1,633	1,601	255	1,888	11	10,576	18,320	28,907	1,152	1,615	7,695	13,800	2,114	1,609	2,861	3,201	2,426	3,288	5,535	445	6,132	4,969	56,842	5,057
	女	196,260	70,231	1,273	1,261	40	1,313	2	1,856	6,432	8,290	70	667	1,355	14,183	2,632	1,014	1,472	5,891	3,415	4,422	15,592	402	3,273	1,807	56,195	4,433
	男女計	370,364	162,925	2,906	2,862	295	3,201	13	12,432	24,752	37,197	1,222	2,282	9,050	27,983	4,746	2,623	4,333	9,092	5,841	7,710	21,127	847	9,405	6,776	113,037	9,490
平成 27 年	男	171,215	90,595	1,571	1,534	204	1,775	17	10,300	18,477	28,794	1,086	1,649	7,270	12,321	2,014	1,617	2,720	2,996	2,340	3,468	6,449	619	6,135	5,133	55,817	4,209
	女	192,939	72,060	1,203	1,190	45	1,248	4	1,955	6,341	8,300	90	663	1,470	14,001	2,599	1,261	1,593	5,942	3,243	4,496	17,524	448	3,465	1,988	58,783	3,729
	男女計	364,154	162,655	2,774	2,724	249	3,023	21	12,255	24,818	37,094	1,176	2,312	8,740	26,322	4,613	2,878	4,313	8,938	5,583	7,964	23,973	1,067	9,600	7,121	114,600	7,938

【国勢調査(平成27年)】

(5) 流動人口

平成 27 年の市外へ流出する人口は 25,487 人(通勤 21,305 人、通学 4,182 人)で市外から流入する人口は 40,710 人(通勤 34,082 人、通学 6,628 人)であり、15,223 人の流入超過となっています。

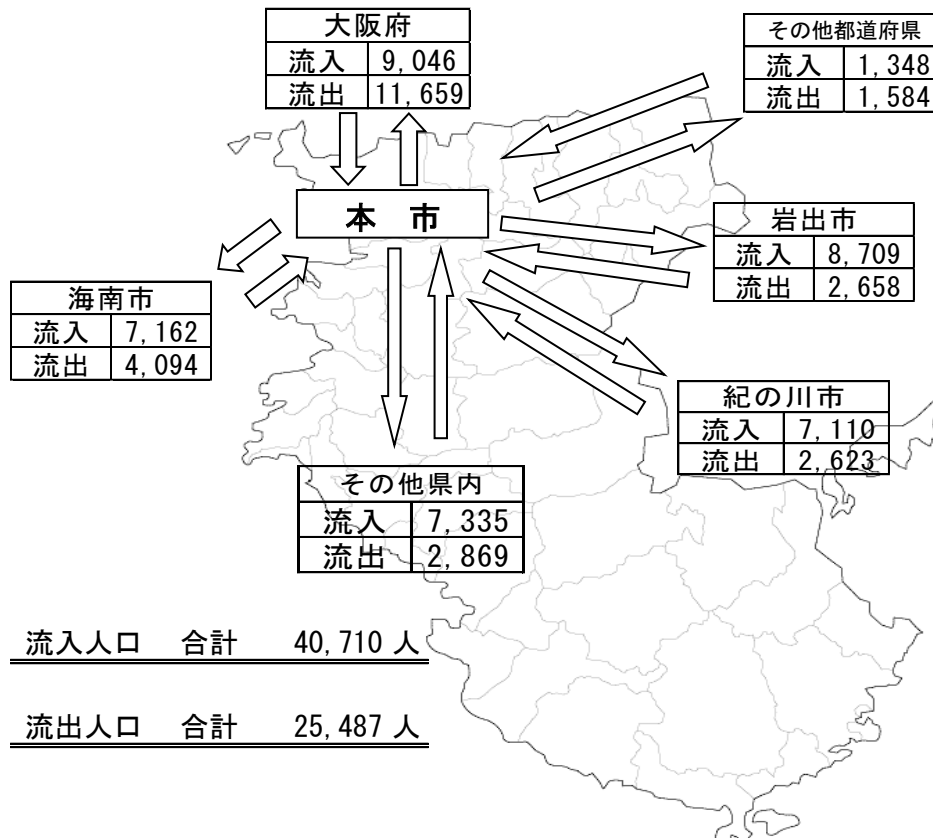
また、流入は県内から約 74%、大阪府から約 22%であり、流出の約 45%が大阪府であることが分かります。

表 6 流動人口

(単位:人)

年	流出入先	流出人口							流入人口						
		合計	海南市	岩出町	紀の川市	その他 県内	大阪府	その他 都道府県	合計	海南市	岩出町	紀の川市	その他 県内	大阪府	その他 都道府県
平成 17 年	通 勤	20,597	3,387	2,080	-	4,293	10,096	741	33,710	6,656	7,013	-	12,984	6,199	858
	通 学	4,354	186	177	-	430	2,933	628	6,195	1,020	548	-	2,360	2,093	174
	計	24,951	3,573	2,257	-	4,723	13,029	1,369	39,905	7,676	7,561	-	15,344	8,292	1,032
平成 22 年	通 勤	20,281	3,705	2,085	2,219	2,270	9,358	644	33,169	6,464	7,309	6,527	6,004	6,199	666
	通 学	4,382	259	245	302	210	2,421	945	6,246	1,026	659	775	1,571	2,065	150
	計	24,663	3,964	2,330	2,521	2,480	11,779	1,589	39,415	7,490	7,968	7,302	7,575	8,264	816
平成 27 年	通 勤	21,305	3,848	2,405	2,329	2,603	9,208	912	34,082	6,226	7,829	6,341	5,808	6,807	1,071
	通 学	4,182	246	253	294	266	2,451	672	6,628	936	880	769	1,527	2,239	277
	計	25,487	4,094	2,658	2,623	2,869	11,659	1,584	40,710	7,162	8,709	7,110	7,335	9,046	1,348

【国勢調査(平成27年)】



## 5 人口動態

### (1) 出生

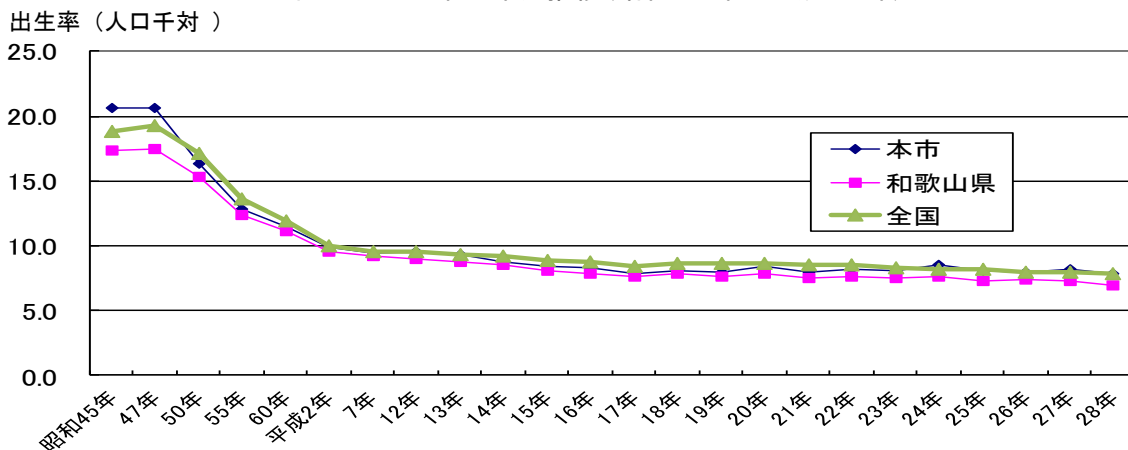
本市の出生数は、第二次ベビーブームである昭和47年には最高の7,854人、出生率(人口千対)は20.6でしたが、以降全国、和歌山県共に減少傾向を呈し、平成28年では、2,812人で出生率(人口千対)は7.8と減少しています。

表7 出生数・出生率(人口千対)年次推移

区分 年次	本市		和歌山県		全国	
	実数(人)	人口千対	実数(人)	人口千対	実数(人)	人口千対
昭和45年	7,574	20.6	17,974	17.3	1,934,239	18.8
47年	7,854	20.6	18,355	17.5	2,038,682	19.3
50年	6,337	16.3	16,340	15.3	1,901,440	17.1
55年	5,140	12.8	13,444	12.4	1,576,889	13.6
60年	4,617	11.5	12,086	11.1	1,431,577	11.9
平成2年	3,924	9.9	10,126	9.5	1,221,585	10.0
7年	3,721	9.4	9,879	9.2	1,187,064	9.6
12年	3,667	9.5	9,566	9.0	1,190,547	9.5
13年	3,568	9.3	9,345	8.8	1,170,662	9.3
14年	3,379	8.8	8,943	8.5	1,153,855	9.2
15年	3,190	8.4	8,561	8.1	1,123,610	8.9
16年	3,163	8.3	8,153	7.8	1,110,721	8.8
17年	2,932	7.9	7,835	7.6	1,062,530	8.4
18年	3,025	8.1	7,930	7.8	1,092,674	8.7
19年	2,996	8.0	7,689	7.6	1,089,818	8.6
20年	3,106	8.4	7,866	7.8	1,091,156	8.7
21年	2,947	8.0	7,516	7.5	1,070,035	8.5
22年	3,052	8.2	7,587	7.6	1,071,304	8.5
23年	3,002	8.1	7,460	7.5	1,050,806	8.3
24年	3,111	8.5	7,424	7.6	1,037,231	8.2
25年	2,948	8.1	7,122	7.3	1,029,816	8.2
26年	2,921	8.0	7,140	7.4	1,003,539	8.0
27年	2,953	8.2	7,030	7.3	1,005,677	8.0
28年	2,812	7.8	6,658	7.0	976,978	7.8

【人口動態調査】

図5 出生率の年次推移(昭和45年～平成28年)



【人口動態調査】



(2) 死亡

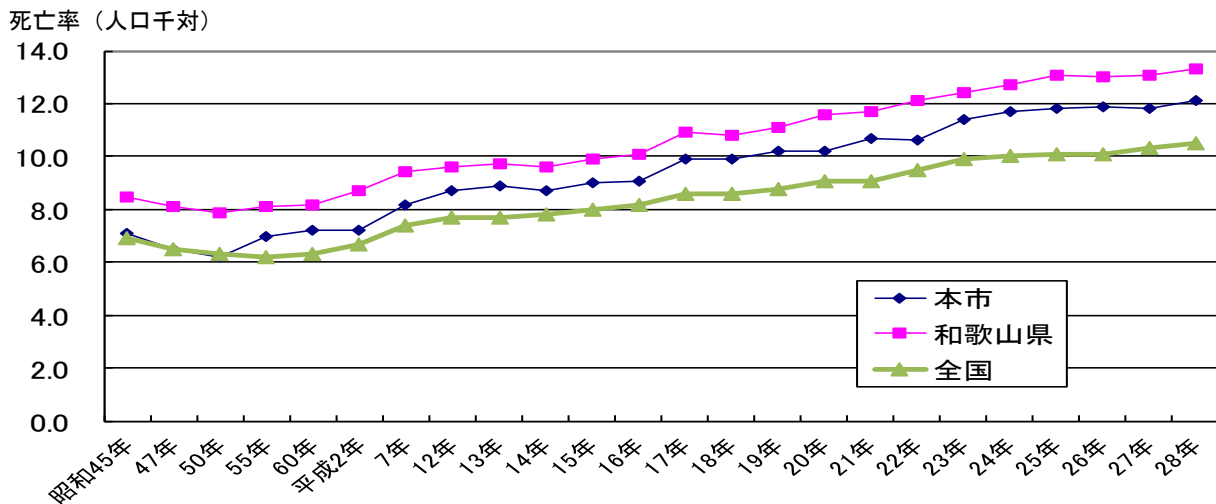
死亡数については、昭和 50 年代後半からやや増加傾向にあり、平成 28 年の本市の死亡率(人口千対)は、12.1 で和歌山県の 13.3 を下回っていますが、全国 10.5 を上回っています。

表 8 死亡数・死亡率(人口千対)年次推移

区分 年次	本市		和歌山県		全国	
	実数(人)	人口千対	実数(人)	人口千対	実数(人)	人口千対
昭和45年	2,603	7.1	8,805	8.5	712,962	6.9
47年	2,478	6.5	8,501	8.1	683,751	6.5
50年	2,422	6.2	8,423	7.9	702,275	6.3
55年	2,795	7.0	8,721	8.1	722,801	6.2
60年	2,900	7.2	8,921	8.2	752,283	6.3
平成2年	2,862	7.2	9,281	8.7	820,305	6.7
7年	3,231	8.2	10,064	9.4	922,139	7.4
12年	3,362	8.7	10,225	9.6	961,653	7.7
13年	3,409	8.9	10,297	9.7	970,331	7.7
14年	3,320	8.7	10,167	9.6	982,379	7.8
15年	3,443	9.0	10,404	9.9	1,014,951	8.0
16年	3,479	9.1	10,600	10.1	1,028,602	8.2
17年	3,678	9.9	11,251	10.9	1,083,796	8.6
18年	3,689	9.9	11,031	10.8	1,084,450	8.6
19年	3,791	10.2	11,256	11.1	1,108,334	8.8
20年	3,793	10.2	11,679	11.6	1,142,407	9.1
21年	3,978	10.7	11,736	11.7	1,141,865	9.1
22年	3,941	10.6	12,049	12.1	1,197,012	9.5
23年	4,199	11.4	12,310	12.4	1,253,066	9.9
24年	4,303	11.7	12,435	12.7	1,256,359	10.0
25年	4,332	11.8	12,773	13.1	1,268,436	10.1
26年	4,330	11.9	12,609	13.0	1,273,004	10.1
27年	4,285	11.8	12,549	13.1	1,290,444	10.3
28年	4,350	12.1	12,619	13.3	1,307,748	10.5

【人口動態調査】

図 6 死亡率(人口千対)の年次推移(昭和 45 年～平成 28 年)



【人口動態調査】

(3) 死因（四大死因別死亡率の推移）

死因別に見ると、平成28年では、悪性新生物27.1%、心疾患17.7%、肺炎10.3%、脳血管疾患6.5%の順となります。男女別では、悪性新生物は男性が多く、心疾患、肺炎及び脳血管疾患はやや女性が多くなっています。

悪性新生物による死亡数1,178人中、男性712人、女性466人と男女差が大きく（男：女＝3：2）、臓器別では、肺がん261人（男：女＝7：3）、大腸がん155人（男：女＝1：1）胃がん135人（男：女＝7：3）、肝がん117人（男：女＝7：3）となり、これらの疾患で668人と全がん死亡数の56.7%を占めています。

表9 死因順位・死亡率（人口10万対）・割合（%）（平成28年）

本市					和歌山県				
順位	死因	死亡数	死亡率	割合	順位	死因	死亡数	死亡率	割合
1	悪性新生物	1,178	327.5	27.1	1	悪性新生物	3,329	350.8	26.4
2	心疾患	772	214.6	17.7	2	心疾患	2,107	222.0	16.7
3	肺炎	448	124.6	10.3	3	肺炎	1,202	126.7	9.5
4	老衰	316	87.9	7.3	4	老衰	1,080	113.8	8.6
5	脳血管疾患	283	78.7	6.5	5	脳血管疾患	925	97.5	7.3
6	不慮の事故	118	32.8	2.7	6	不慮の事故	340	35.8	2.7
7	自殺	87	24.2	2.0	7	腎不全	279	29.4	2.2
8	腎不全	80	22.2	1.8	8	自殺	206	21.7	1.6
9	慢性閉塞性肺疾患	64	17.8	1.5	9	慢性閉塞性肺疾患	195	20.5	1.5
10	大動脈瘤及び解離	56	15.6	1.3	10	大動脈瘤及び解離	151	15.9	1.2
	その他	948	263.6	21.8		その他	2,805	295.6	22.2
	総数	4,350	1,209.5	100.0		総数	12,619	1,329.7	100.0

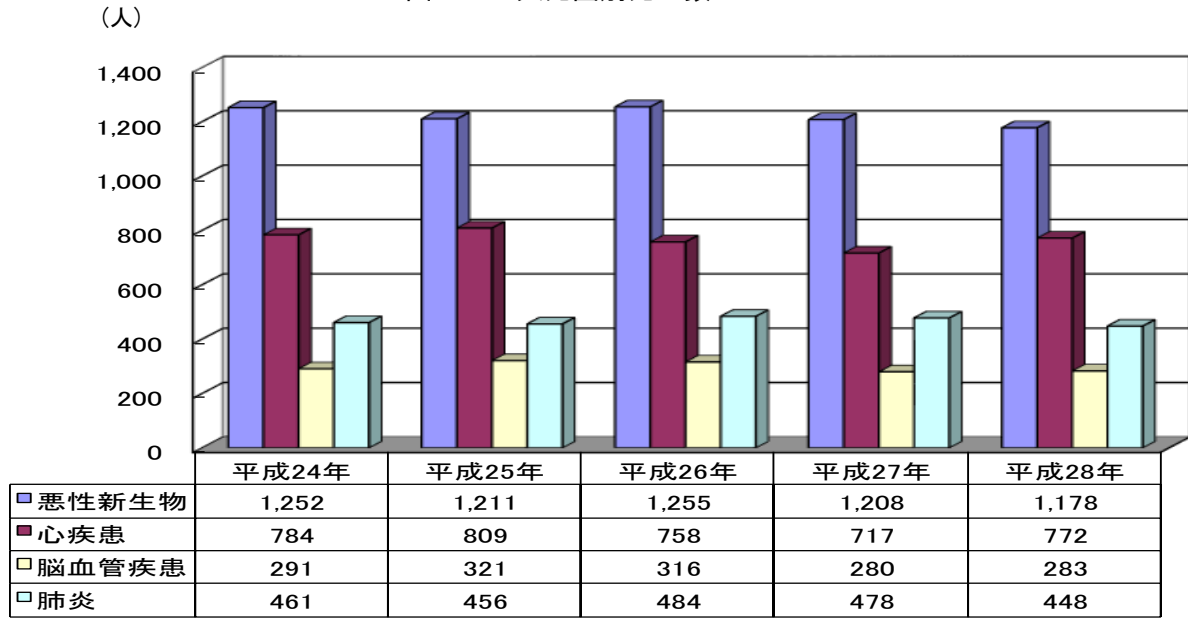
【人口動態調査】

表10 本市の四大死因男女別死亡数（単位：人）

		総数		
		総数	男性	女性
悪性新生物	平成24年	1,252	749	503
	平成25年	1,211	709	502
	平成26年	1,255	719	536
	平成27年	1,208	721	487
	平成28年	1,178	712	466
心疾患	平成24年	784	361	423
	平成25年	809	359	450
	平成26年	758	326	432
	平成27年	717	326	391
	平成28年	772	381	391
脳血管疾患	平成24年	291	145	146
	平成25年	321	152	169
	平成26年	316	142	174
	平成27年	280	130	150
	平成28年	283	134	149
肺炎	平成24年	461	234	227
	平成25年	456	231	225
	平成26年	484	241	243
	平成27年	478	256	222
	平成28年	448	206	242

【人口動態調査】

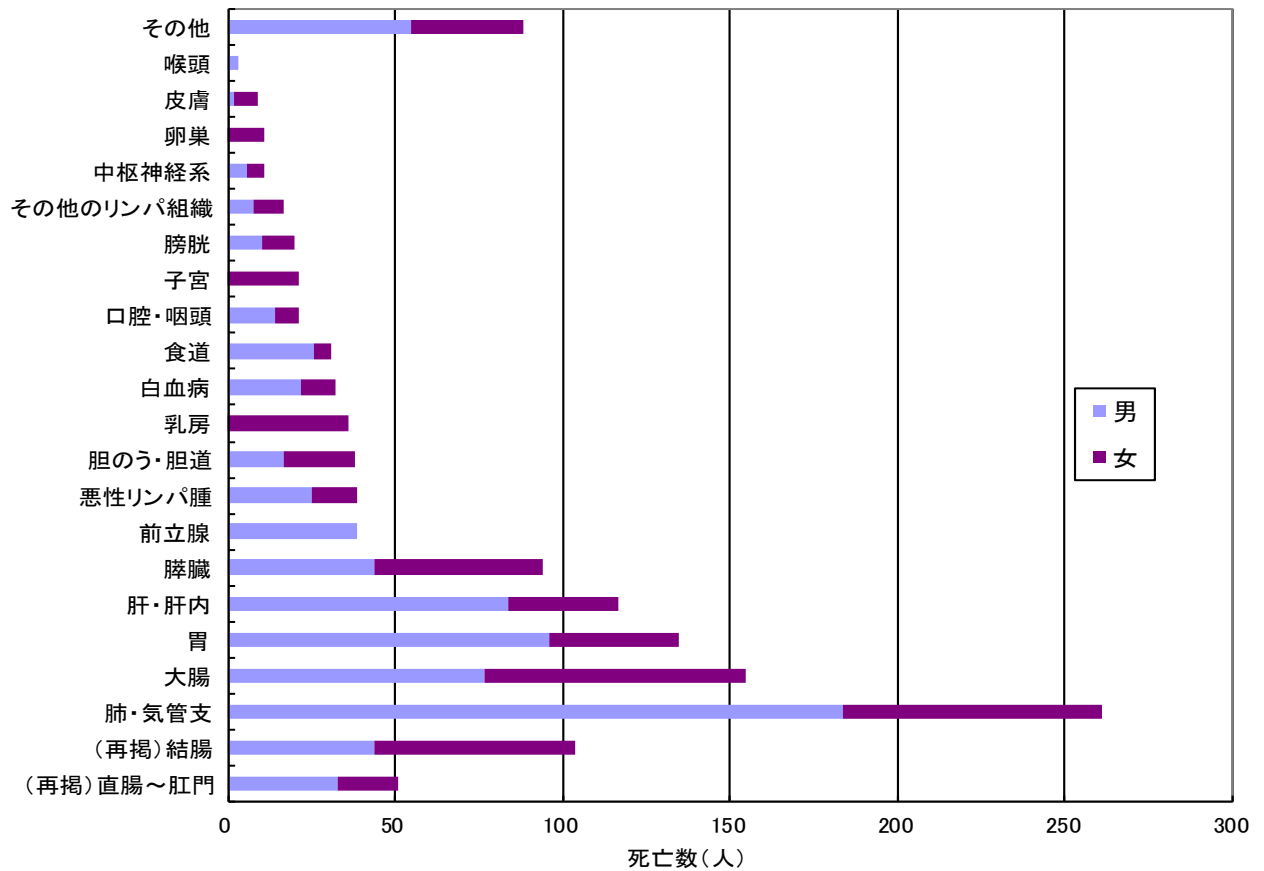
図7 四大死因別死亡数



【人口動態調査】

図8 本市の悪性新生物による死亡数(男女別・臓器別) (平成28年)

総数 1,178 人(男性 712 人・女性 466 人)



【人口動態調査】